

経済統計 練習問題

第12回 家計に関する統計(2)

2018年11月12日

問 1x 以下の文章を完成させよ。

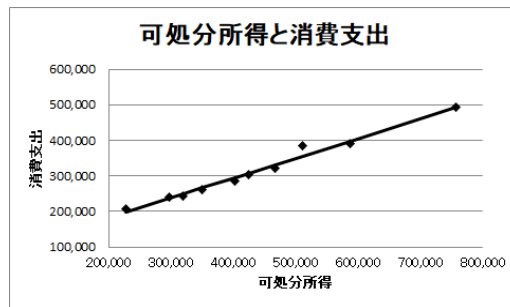
家計調査のデータを用いて、

$$Y(\text{消費}) = a + bX(\text{所得})$$

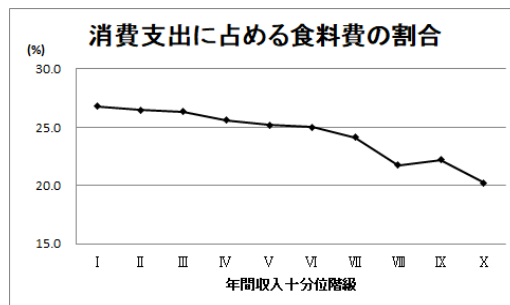
というケインズ型消費関数を推定することができる。

この消費関数は{(a) 消費 (b) 所得}を原因、{(a) 消費 (b) 所得}を結果とする因果関係を数式で表したものであり、係数 b は _____ といわれる。

下の図は、年間収入十分位階級のデータ(平成29年平均、全国2人以上世帯のうち勤労者世帯)を用い、ケインズ型消費関数を推計したもので、 $Y = 72130 + 0.555X$ となる。よって、平均的な家計に1万円の臨時収入があった場合、 円が消費にまわされるといえる。



下の図は食料費が消費支出に占める割合を、年間収入十分位階級のデータ(平成28年平均、全国2人以上世帯のうち勤労者世帯)を用いて描いたものである。



この図を見ると、所得が高くなるほど、食料費の消費支出に占める割合(これを _____ という)が低くなるという、_____ の法則が{(a) 成り立っている (b) 成り立っていない}ことがわかる。

また、グラフが右下がりの費目は{(a) 必需品 (b) ぜいたく品}と分類される。

問2 次の記事は、公的統計のデータを基にした、家計消費の状況を解説した新聞記事である。

記事の(ア)家計の状況を示す統計指標、(イ)その指標を算出する統計調査の名称、に入る語として最も適切な組み合わせを、下の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。

このごろ(ア)の話題をよく聞く。生活費に占める食費の割合のことだ。この数年で日本の(ア)はかなり高くなって25%を超えた。(中略)

収入が増えていないのに、円安や消費増税で食品が値上がりしたのが大きい。たしかに去年は納豆や食用油などの値が軒並み上がった。(中略)

バブル経済の時代、(ア)や(イ)に対する関心は低調だった。だが近年は経済格差のせい、再び脚光を浴びつつある。

資料: 2016(平成28)年7月16日朝日新聞「天声人語」(抄)

- | | |
|---------------|---------------|
| ① (ア) エンゲル係数 | (イ) 家計調査 |
| ② (ア) エンゲル係数 | (イ) 消費動向調査 |
| ③ (ア) 相関係数 | (イ) 国民健康・栄養調査 |
| ④ (ア) エンジェル係数 | (イ) 家計調査 |
| ⑤ (ア) エンジェル係数 | (イ) 消費動向調査 |

(統計検定 統計調査士 2016)

問3 次の表は、総務省「平成21年全国消費実態調査」における二人以上世帯の年間収入階級別世帯分布である。年間収入の第1四分位数が含まれる年間収入階級について、下の①～⑤のうちから、適切なものを一つ選びなさい。

二人以上の世帯 年間収入階級別 世帯分布		
年間収入階級	度数	相対度数
総数	10,000	1.00
200万円未満	440	0.04
200万円～300万円未満	839	0.08
300万円～400万円未満	1,507	0.15
400万円～500万円未満	1,448	0.14
500万円～600万円未満	1,240	0.12
600万円～800万円未満	1,925	0.19
800万円～1000万円未満	1,176	0.12
1000万円～1250万円未満	739	0.07
1250万円～1500万円未満	345	0.03
1500万円以上	342	0.03

資料: 総務省「平成21年全国消費実態調査」

- ① 200万円未満
- ② 200万円～300万円未満
- ③ 300万円～400万円未満
- ④ 400万円～500万円未満
- ⑤ 500万円～600万円未満

(統計検定 統計調査士 2014)